

## 大人のための食育活動

### ■背景とねらい

これまで支援センターでは小中学生の農業体験指導を主体に食育を推進してきた。しかし食育基本法には「すべての国民のための取り組み」とある。そこで本年度は大人が関わる食育活動を意識して活動した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 大人の食育食事会（10月）

食材の生産者から生産現場の様子を、シェフからは食材に込めた思いなどの話をいただいた。食事会参加者へ地域食材の魅力が伝わった。

#### 2 栽培加工体験イベントの運営支援

下條村農業女子グループが取り組んだ大豆の栽培加工体験イベントで、畑づくりや栽培管理技術のほか、大豆の花の観察などの、体験イベントの企画運営を支援した。

#### 3 まめっこ応援団の大豆栽培活動支援（11月）

阿智村の子育て支援事業の1つで、子育て世代の親子を対象とした大豆づくりのうち、ハーベスターを使った大豆の脱穀作業体験を支援した。

#### 4 食を考えるつどいの活動支援（12月）

管内の食育関係者によるイベントに参加し、発表や展示で支援センターが取り組む食育活動について紹介した学校給食の現場だけでなく、外食や内食でも食育を意識することを提案できた。

### ■今後の課題と対応

小中学校での農作業指導だけでなく、植物の変化を観察したり、実際に飲食店が仕入れている食材情報や、その食材に込めた生産者の想いを消費者に伝える取り組みを進める。

また、農業者への食育活動も必要で、分かりやすい食育という観点を加えての、農業現場の情報発信活動を意識付けていく。

本取組は中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。

（阿南支所：高橋 博久）

## （農）下條ふるさとうまい会の経営改善計画作成支援（下條村）

### ■背景とねらい

（農）下條ふるさとうまい会は、コロナ禍で観光客が減少し売上が減少していることから、農産物直売所運営案内人事業を導入し、コロナ禍後の新しい暮らし方に対応できる経営方法を検討することにした。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 活動実績（7月から2月）

毛賀澤明宏氏をアドバイザーに計6回、検討を行った。1、2回目は課題の洗い出し、3回目は毛賀澤氏と同会代表理事、支援センターの3者のみで検討会の進め方を整理し、4回目は役場との情報共有、5回目は改善計画の検討、6回目は毛賀澤氏から提案された改善計画について意見交換を行った。

#### 2 課題の洗い出し

同会は、組合員の農産物、仕入品、加工部門の菓子や惣菜などを販売しているが、主力の加工品について品目ごとの販売実績の記録がなかった。

また、これまでの製造販売計画は経験によるもので、データに基づく月間の売上目標等は設定されていなかった。

#### 2 改善計画の検討と実践

加工品ごとの売上データを把握するためにレジスターの設定を見直し、10月から記録を取り始めた。高齢化等により現在の従業員でデータの管理、分析ができないため、地域おこし協力隊事業を活用した専従職員の確保を役場に依頼した。

### ■今後の課題と対応

6回の検討会で提案された経営改善計画案について、今後は組織内での検討と実践をサポートしていくとともに、役場と連携して、同会の新たな販路開拓に向け道の駅周辺再開発プロジェクトへの参画を支援する。（阿南支所：高橋 博久）

# 飲食店と連携した地産地消活動

## ■背景とねらい

これまでの地産地消活動は直売所やスーパーの地元食材コーナーでの情報発信が中心だった。本年度は、伝統野菜や地元の特徴ある食材を、情報発信力のある飲食店で使用してもらうこと、および家庭でも簡単に組み入れるガレットを活用して推進することをテーマに活動した。

## ■本年度の取組と成果

### 1 野菜サロン「もくよういち」の支援

生産者と実需者の交流の場として、毎週木曜 15 時からの開催を支援した。コロナ禍で飲食店での食事は減少したが、キッチンカーでのイベント出店やテイクアウト弁当の販売などにつながり、地元野菜を積極的に使うシェフの取組も定着した。

### 2 南信州うまいもん協議会との連携支援

同協議会は飯田市を拠点とする飲食店のグループだが、伝統野菜はほとんど使ったことがなかったため、生産者の紹介やサンプル提供を行って利用促進を図った。その結果、親田辛味大根とていざなすをマッチングでき、新たなメニュー開発につながった。

### 3 地産地消ガレットの取り組み

ガレットを活用して家庭菜園や直売所の地元食材の消費拡大を図るための料理教室を飯田市南信濃と阿南町で開催した。また阿智高校生による地元食材のガレットメニュー作りの支援、南信州グリーン・ツーリズムネットワーク「この指とまれつながり逢いの会」によるガレット試食会支援などにより、地産地消の定着を図った。

## ■今後の課題と対応

簡単に作れるガレットを継続的に紹介しながら地産地消に取り組めるように情報発信を行う。地元食材の活用について、農村生活マイスターや農村女性ネットワークとも連携する。

本取組は中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用している。 (阿南支所：高橋 博久)